

The sky's the limit.

全国大会参加報告～全国高等学校総合体育大会 男子サッカー競技大会～

今号は、前号に引き続き7月29日～8月4日に行われた男子サッカー競技大会を担当した審判員からのコメントを紹介します。

◎大川 宗憲 担当試合：東北学院(宮城)vs金光大阪(大阪①) 4th

36年ぶりの地元北海道で開催されるインターハイに審判員として参加できたことを嬉しく思います。当日は30℃を超える中、東北学院対金光大阪の試合の4審を担当させていただきました。

目の前で全国レベルでの試合を感じながら審判団、運営と協力して選手にストレスなく試合を無事に終了させることができました。

また、振り返りではインストラクターよりこれから審判員として求められるマネジメントや動き方など勉強になることがあり、

今度の活動でも試行錯誤しながら審判員として求められる資質を磨いていこうと思います。

◎佐藤 修也 担当試合：遠野(岩手)vs市立船橋(千葉) 4th

選手としては叶えることのできなかった全国大会の舞台に、このように関わることができると審判員を続けてよかったですと心から思います。稼働の連絡をいただいた時には、選手たちの熱い戦いを想像し、気が引き締まりました。

担当させていただいた試合は、結果こそ差が開いたものの、両チームともに勝利のためにゲームに集中し、4th担当の私はほとんど仕事がないようなクリーンなゲームとなりました。

ただ、ゲームの中ではリードしているチームがアウトオブプレー時やセットプレーの際に巧みに時間を使おうとする場面があり、試合中は違和感なく見ていましたが、振り返りの際にインストラクターの方にご指摘いただいたことで、私自身新たな気づきがありました。新たな引き出しが増え、今後はより注意深く監視をしていかなければと思いました。

高いレベルのゲームを地元北海道で担当することができたことに心から感謝し、この経験を今後に活かすとともに地区へ還元していきたいと考えております。

◎堀毛 憲太郎 担当試合：尚志(福島)vs丸岡(福井) 4th

私は審判としてインターハイに関わる初めての機会でした。高校サッカー部顧問として運営にも関わり、審判の活動がどれだけ充実しているか、大切な存在かを再確認する場となりました。

なぜそう思ったかという、オンラインでの事前研修や意識のすりあわせ、技術・知識の確認など徹底的に試合を円滑に進めるための準備がされていたからです。

今大会ではテーマを「Player's management」として事前研修が展開されました。インストラクターの皆様のおかげでわかりやすい講義、動画解説、事前・事後対応の討論など本当に勉強になりました。

私は7月29日に実施された1回戦「尚志高校-丸岡高校」の第4審判を担当しました。MC、アップ、打合せ、試合コントロールなど若い各地の審判団とのコミュニケーションは緊張感と高揚感も味わえるすばらしい場でした。

今後も高校サッカーに携わる中でサッカーの魅力を発信していきます。

最後に、今大会への空知地区からの審判ご協力誠にありがとうございました。

- Referee Development Partner -

GOLD

にしみこども
クリニック

BRONZE

